

三原市立宮浦中学校 教育研究会

(ブロック公開) 令和4年9月16日(金)

学校教育目標

郷土を愛し、確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成
— 学び合い、高め合う宮中生 —

研究主題

『資質・能力の育成をめざした学びの創造』



～コミュニケーションを活用した授業と、問いの工夫を通して～

【育成をめざす資質・能力】 ■知識・技能 ■公共心 ■協働する力 ■問題解決能力 ■伝える力

生徒の実態

NRTの偏差値平均(4月)

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	49.9	49.1	49.8	49.8	48.5	49.4
2年	50.8	50.6	49.3	48.7	53	50.3
3年	48.8	50.6	50.4	48.9	48.1	49.4

学習環境分析 hyper-QU(4月)

	1年	2年	3年	全体
1次支援(%)	74.5	76.6	62.7	71.3
2次支援(%)	20.2	19.6	26.7	22.2
3次支援(%)	5.3	3.7	10.7	6.6
学習意欲(点) (下段・全国)	17.5	16.2	15.5	14.3
	15.3	15.3	15.3	14.2

■ 5段階分布で1の生徒の割合が全国平均より多く、15教科のうち11教科に及ぶ。

(※5教科×3学年=15教科)

→ 基礎学力の確実な定着

■ 全学年、国語の問題において、「考えや感想をまとめ伝え合う」「考えが伝わるよう工夫して書く」の項目に大きな課題がある。

→ 伝え合う力の育成

■ 1学年「かかわりの尺度」が低い。

■ 2学年「学級との関係に対する生活意欲」が低い生徒が多い。

■ 3学年「三次支援が必要な生徒」の割合が多い。

■ 学年が上がるごとに、学習意欲が低くなっている。

→ 生徒同士をつなぐ学び合い

による、全員参加の授業

研究仮説

全授業において、課題解決学習を仕組み、生徒がコミュニケーションを取り合うような問いや活動の工夫をすれば、思考が深まり、本校が育成を目指す資質・能力を高められるであろう。



- ◆コミュニケーションを活性化させるための、ペア・グループ学習の設定
- ◆意欲的にコミュニケーションをとりたくなるような問い・課題の工夫
- ◆多様な考えが引き出され、思考が深まるような問い・課題の工夫

宮中授業モデル

導入の工夫 (課題設定)

ねらいを示し、既習知識とのギャップや、対象への「興味」「必然性」を感じさせ、多様な考えが引き出される問いや課題を設定し展開に繋ぐ。

展開の工夫 (課題解決)

個で考えを整理し、ペアやグループでのコミュニケーションを通して、考えを広げたり、まとめたりして深め、解決方法を探し、結果を予測しながら解決に繋ぐ。

まとめの工夫 (新たな課題発見)

授業後、ねらいに対する振り返りを行い、わかった点や疑問点、さらに学んでみたいこと等、自分の言葉で学習状況を整理させながら、次の学びに繋ぐ。

単元構想シートを使った、問いの精選

【本質的な問い】 その教科を学ぶ意義や、その教科を通して「どんな人に育てたいか」「どのように生きてほしいか」という授業者の願いや信念が表れた問いにする。

【単元を貫く問い】 追究・解決することで、単元の目標の達成につながるような問いにする。
単元のまとめで、生徒にどんな言葉で何を語らせたいか、ゴールの姿を明確に持つ。

【個別の問い】 単元の目標を達成するために、どんな知識や技能が必要で、何を理解しておく必要があるのかを明確に持ち、既有知識や生徒の経験から導き出せる問いにする。



問い・課題の実践例と、生徒の反応

社会 【問題解決能力】	実践例	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">迫りくる自然の驚異に対して、今私たちができることは何だろう。</p> <p>日本で起きる可能性のある自然災害を挙げさせ、地理的知識をもとに特に三原で気をつけるべき災害を絞ってその被害を予測し、自分たちの行動を考えさせる学習。</p>
	生徒の反応	<p>班で考えさせると、津波や高潮被害等を含めて各クラス約20の災害が挙がった。過去の経験から「三原では豪雨災害による水害が課題」であると自分事として捉えた生徒が多く、三原のハザードマップを見ることで、「自分の家は危ない」というショックと共に「ここに逃げよう、避難経路は…」と、主体的に防災を考えていた。</p>
家庭科 【知識及び技能】 【協働する力】 【問題解決能力】	実践例	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">こども園の子どもが喜んでくれるおもちゃを作ろう</p> <p>クリスマスプレゼントとして近くのこども園の幼児に実際に渡すため、デザイン、布選び、パーツ裁断を含め、各自、おもちゃを考えて縫製する課題。</p>
	生徒の反応	<p>おもちゃのアイデアについてグループで交流させると、どのようなデザイン・色・手触りが喜ばれるのか、幼児の誤飲や事故につながるものではないか等のアイデアが出た。安全に関する視点が一番重要であると気づき、自分が作ったもので子どもが遊んでいる姿を想像させることで、製作工程の必要感を持って学習を進めることができた。</p>
英語 【問題解決能力】 【伝える力】	実践例	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ALTに自己紹介する時、どのような工夫をしたら自分を覚えてもらえるだろう</p> <p>どのような情報をどのような表現で伝えたら印象に残るか考えて、自宅で動画を撮影し、それをALTに提出してコメントを返してもらう活動。</p>
	生徒の反応	<p>お気に入りのBGM、写真集や食べ物、ペットを登場させながら自由に表現できたことや、納得するまで何度も撮り直せたことで、英語が苦手な生徒も主体的に取り組んでいた。また、仲間の良い作品やALTからの返信を見たことで、コミュニケーションへの意欲や「次はもっとこうしたい」という新たな課題につなげることができた。</p>
数学 【知識及び技能】 【協働する力】 【問題解決能力】	実践例	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電卓でできない桁数の計算を、乗法公式を使って解くには？</p> <p>電卓ではオーバーフローする「95876893×79252193」の計算を、乗法公式の知識を活用して積を求める課題。</p>
	生徒の反応	<p>「桁数が多い→数を分けて計算→乗法公式の利用」に気づくと、生徒は班でアイデアを共有し、積の出し方を探り始めた。乗法公式の有用性に気づく生徒が多かった。 95876893×79252193 $a=9587, b=6893, c=7925, d=2193$ とおくと $=(10000a+b)(10000c+d)=100000000ac+10000(ad+bc)+bd$ $ac, ad+bc, bd$ はそれぞれ8桁の数となり電卓で計算可能。</p>
保健 【問題解決能力】	実践例	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">溺れた時、どのような行動が、助かる確率を上げるだろう</p> <p>水難事故を防ぐため、グループで意見を比較・検討・発表させる活動。</p>
	生徒の反応	<p>「自分が溺れた時」「友人が溺れた時」など当事者意識に立って想像させることで、意欲的に考えを伝え合っていた。仲間の意見に対して、「でも、それだと、〇〇な時はどうするの？」などと、想像力を働かせて新たな疑問をぶつける生徒も見られ、対話によって思考が深まっていることが感じられた。</p>

その他の実践例は、指導案集の後半に入れています。

7月のアンケート結果

◎あてはまる ○どちらかと言えばあてはまる △どちらかと言えばあてはまらない ×あてはまらない

【生徒】授業では、友達と話し合うことを通して、自分と違う意見から新しい気づきを得て、自分の考えを深めたり広げたりしている。【協働する力】(%)

	◎	○	△	×
1年	49	40	9	2
2年	46	43	8	3
3年	58	26	5	11
特支学級	33	33	17	17

【生徒】授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手が理解しやすいように、わかりやすく表現する工夫をしている。【伝える力】(%)

	◎	○	△	×
1年	37	49	8	6
2年	25	49	24	2
3年	19	55	17	9
特支学級	50	17	33	0

【生徒】生じている問題の原因を考え、比較したり予想したりしながら、その問題の解決のために、より良い方法を探している。【問題解決能力】(%)

	◎	○	△	×
1年	59	30	7	4
2年	43	41	13	3
3年	44	35	13	8
特支学級	33	33	17	17

【教員】生徒の興味を高め、多様な考えを引き出せる問いを設定している。(%)

◎	○	△	×
24	35	35	6

資質・能力に係る

現在の課題と、今後の取り組み

アンケート結果より

【協働する力】普段からペアやグループ活動を授業に組み込んでいるため、協働学習が生徒に浸透している。一方、話すことによるコミュニケーションが苦手な生徒への手立てや、誰とでも交流できるような生徒同士のつながりを作る支援が十分でない。

【伝える力】「よく当てはまる」の回答率が、その他のアンケートに比べて顕著に低く、2・3年生の4人に1人が否定的回答をしている。授業においては、考えを持つこと自体が難しい生徒や、根拠をもとに伝えることが苦手な生徒も多い。

【問題解決能力】教員アンケートの、「問いの設定」に関する否定的回答が4割を超えており、このことが生徒の【問題解決能力】の育成にも影響していると思われる。授業者も試行錯誤しながら授業を行っているが、文言の工夫や繰り返し発問、ひっかけを生むような事象との出合わせ方を研修していく必要がある。

今後

- ◆意見交流の手段を工夫したり、生徒同士で思考を深めていく対話方法を指導したりしながら、全ての生徒が授業に参加できるようにする。
- ◆伝える際のどの過程に困難さがあるのかを正確に把握して指導していくとともに、主語を明確にし根拠をもとに伝える指導を行う。
- ◆「誰かのために」の視点も入れることで必要感のある学びにし、答えを見出す達成感や、学んだ事を仲間へ教える充足感を味わう経験をさせていく。
- ◆知的好奇心をくすぐり、生徒の「できた」「わかった」とともに喜び、ともに学ぶ教師でいる。